

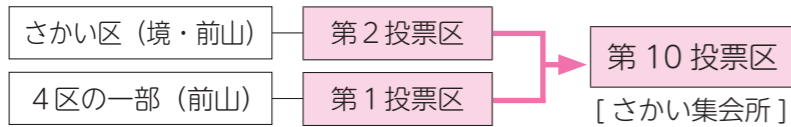
10月28日執行の福島県知事選挙から

さかい区に選挙投票区が**新設**されます！

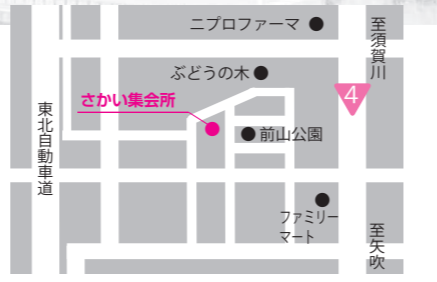
さかい区の方は、今まで第2投票区（笠石区・さかい区）に区分され、笠石防災センターが投票所になっていました。しかし、町外からの転入者等により住民が大幅に増加したことに加え、投票所の場所が他地区の集会所であり、分かりづらいなどの意見が多く寄せられていました。

そこで、投票しやすい環境を整えるため、さかい区に第10投票区を新設することになりました。10月28日執行の福島県知事選挙から、さかい区と、鏡石4区の一部の方は第10投票区の投票所となる「さかい集会所」で投票を行っていただくこととなります。

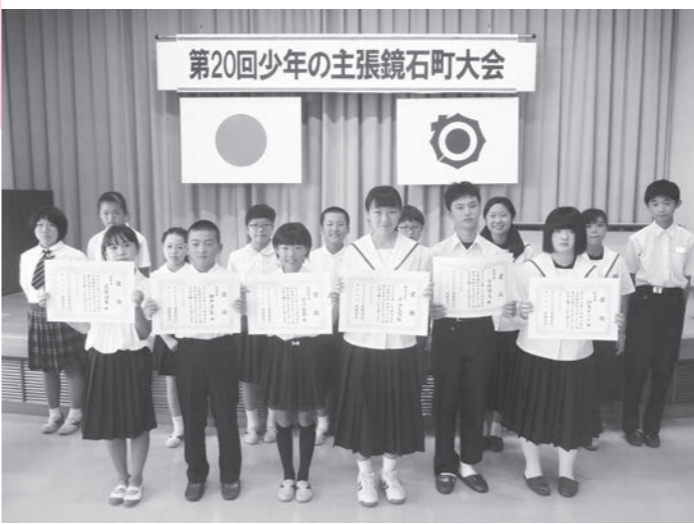
【見直しの内容】



投票所となるさかい集会所



●問い合わせ先
町選挙管理委員会 ☎62-2111



第20回

少年の主張鏡石町大会

8月4日(出町図書館)で第20回少年の主張鏡石町大会が開催され、小学生9人、中学生6人が出場し、日頃感じたことや考えていることなどを発表しました。最優秀賞は、小学生の部が緑河里那さん(一小6年)、中学生の部が深谷美波さん(鏡石中1年)の2人が受賞しました。また、田中歩生さん(二小5年)、遠藤理央さん(一小5年)、曾根時家さん(鏡石中2年)、鈴木すみれさん(鏡石中3年)の4人が優秀賞を受賞しました。中学校の上位3人は、県大会に推薦されます。最優秀賞を受賞した2人の作品を今月と来月に分けて紹介します。

思いやり+ルール

緑河 里那



壇上で話す緑河さん

「ルール」というと、みなさんはどんな印象を受けますか。「規則・規定・規制」など、どうしてもしぼりつけられているイメージが強くなってしまう人も多いと思います。しかし、社会という集団生活を過ごすという手段の一つが「ルールを守る」ということであり、ルールの中には、相手を思いやる心が行動となり、自然とルール化する場面もあるのではないかと私は思っています。

私は、母から「思いやり運転」について教えてもらったことがありますが、ただ「信号を守る、速度を守る、シートベルトをする」のような、規

則を守るということではなく、雨の日には、自転車や歩行者に水がはじかないように速度を落としたり、信号のない道路で、右折する車がいて渋滞していたら、止まって車を入れてあげたりする。それが、「思いやり運転」なのだと思いやりました。今の社会では歩行者や信号の無視、飲酒運転やスピードの出し過ぎ等による事故が後を絶ちません。交通規則に限らず、第一に、ルールを守ることが重要ですが、それができたうえで、「+思いやり」が、明るく過ごしやすい社会へとつながっていくのだと思います。

先日、サッカーワールドカップが行われました。そこで、試合後の日本代表のロッカールームがきれいに清掃されていたことが話題になりました。日本人サポーターが、応援後、観客席のごみ拾いをする姿も、世界中の人々から賞賛を受けていたことは、記憶に新しいと思います。ありがたうという感謝の気持ちの表れかもしれません。これも、次に使う人を使う気持ちがあつてのことだと感じます。

このような「思いやり運転」や日本代表によるロッ

カールームの清掃は、規則で決められたルールではありませんが、自分たちで使った場所を清掃しないといけないという決まりもありません。しかし、相手を思いやる心で自然とルール化したり、「使ったら、使う前よりもきれいに」というのが、日本人の精神なのだと思います。

私は、自分たちにもまねできることはないか考えてみました。すると、私はこれまでにしたり、手洗い場をぬらしにしたり、手洗い場をぬらしにしたりするなどが、雑な使い方をすることが多かったことに気づきました。次に使う人、清掃する人の気持ちを考えて、トイレや手洗い場をきれいに使うようにしたいと思いました。また、普段の学校生活でもできることはいくつか考えられます。机やイスをきちんとそろえて元に戻す、消しゴムのかすなどのごみをそのままにしない、脱いだくつをそろえる、ろう下の右側を歩くなどです。これらは、決して難しいことではない、あたりまえのことです。

でも、連鎖していくのが難しいのは、一人一人の「思いやり」が欠けているからではない

いでしょか。

母は、思いやり運転をしたとき、相手から、会釈やありがとうの「ププッ」というクラクションが返ってくる、自分もうれしくなると言っていました。相手を思いやる行動が、相手も自分もうれしい気持ちにつながり、また次の思いやる行動につながっていく。このように、自然とルール化される「思いやり+ルール」のすばらしさを、みなさんに理解してほしいと思います。そして、一人一人が日本人の精神を思い出し、自分優先ではなくて、相手を思いやる行動を心がけることで、「思いやり+ルール」を広げていけたらと思います。「思いやり+ルール」を理解して行動してくれる人が増えていってほしい。みなさんも、日常生活のあたりまじの行動に、思いやりをちよこつとだけプラスすることから始めませんか。一人一人から学級、学校全体へとつながっていきましょ。そして、それがいつか、日本だけではなく、世界中へと広がり、明るく暮らしやすい社会、よりよい未来へとつながっていくことを私は信じています。

平成30年

住宅・土地統計調査

を実施します

総務省統計局（福島県・鏡石町）では、10月1日現在で住宅・土地統計調査を実施します。

この調査は、住生活に関する最も基本的で重要な調査で、全国約370万世帯の方々を対象とした大規模な調査です。

今回の調査では、住宅数や国民の居住状況だけでなく、①「高齢化社会を支える居住環境」、②「耐震性・防火性等の住宅性能水準の達成度」、③「土地の利用状況」のほか、「空き家対策の推進に関する特別措置法」が施行されたことにより「空き家の実態」を把握することをねらいとしています。

調査期間中、統計調査員が調査書類を配布いたします。調査への回答は、インターネット回答又は紙の調査票での回答をお願いします。



田んぼアート観覧者数

1万人 & 2万人 記念!

2018 かがみいし田んぼアートの観覧者が7月27日(金)に1万人、8月25日(土)に2万人を突破しました。記念すべき1万人目の観覧者となったのは神奈川県在住の武田大介さん家族、2万人目は矢吹町在住の熊田理恵さん家族でした。それぞれの家族には、田んぼアート実行委員会の和田和久実行委員長から町特産の桃や梨、特別純米酒「鏡の雫」、牧場の朝のまちジェラートなどの記念品が贈呈されました。



▲記念品を受け取る武田さん家族



▲記念品を受け取る熊田さん家族